



鹿児島県大島郡宇検村湯湾915番地

電話：0997(67)2211番

FAX：0997(67)2262番

発行所：宇検村役場

編集：総務企画課

URL <http://www.uken.net>

Mail soumuk@uken.net

CONTENTS

- P 2 ~ 3 平成25年度施政方針
- P 4 ~ 7 むらの話題
- P 8 ~ 9 やけうち短歌会の紹介
- P 10 ~ 13 お知らせ
- P 14 ~ 15 平成25年度当初予算など
- P 16 村民のうごき



台風被害の影響で10ヶ月ぶりに運用が開始した宇検村総合体育館でソフトバレーを楽しむ村民
【※詳細につきましては、5頁へ掲載しています。】



宇検村長
荒田 信彦

平成25年度 施政方針

毎年、第1回目の村議会定例会で村長が表明する施政方針は、その年度における政策の方向性を示すものです。

今回、その施政方針の内容につきまして掲載いたします。(※紙面の都合上一部抜粋)

はじめに

第5次宇検村総合振興計画を策定し、今年度が新たなスタートの年です。10年後の宇検村としての将来像を村民とともに共有し、村民一人ひとりの意見を拝聴しながら、生きがいを持って安心して暮らせるための施策を構築していく所存であります。

村政運営の基本方針としては、第5次宇検村総合振興計画に基づき、住民の和を基本として、豊かな自然と歴史・文化を生かし、安らぎと潤いのある宇検村づくりに取り組んでまいります。そのためには、公正公平・透明性のある村政運営を行い、村民の融和を図りつつ、地方の時代にふさわしい個性あふれる村づくりを村民とともに築いて行きたいと思っております。

行財政改革

これまで行財政改革を進め、事務事業、組織機構、定員管理等を見直してきました。

今後も財政健全化はもとより、地方分権の推進や社会経済の変動に対応できる自治体として、行財政改革の継続は必要不可欠であり、着実に推進してまいります。また、地方分権や補助制度の改正などへの対応が迫られていることから、職員の資質向上を図るため、各種研修への参加を積極的に進めてまいります。

県道については、現在継続中の生勝工区が平成25年度で完成し、今後は、佐念からタエン浜間の改良計画を要望して参ります。

整備事業

平成22年度から着工している平田〜タエン浜間は平成27年度完成を目指して工事を進めています。

村道関係につきましては、平成24年度に引き続き下田橋の整備と取付道路の改良を実施します。

港湾事業については、須古地区の防砂堤を完成させ、湯湾地区の船揚場の整備を進めて参ります。

住宅については、今年度、阿室校区に公営住宅1棟2戸を建設します。小規模住宅は補助で2戸、単独で1戸を整備します。

農業振興

長年の懸案事項でありました奄美大島共同選果場が平成25年2月から稼働し、今後奄美大島の果樹の品質が統一され販路拡大と農家所得向上が期待されているところであります。

本年度は、農地環境整備事業で石良・阿室地区で農業用水の整備、平田地区で猪防護柵と農業用水の取水施設の更新、鳥獣被害対策実践事業で湯湾地区の猪防護柵を整備します。

地域農業水利施設ストックマネジメント事業では、湯湾地区一帯の農業用水の水源確保のため導水管の補修を行います。

「うけん市場」は、平成23年10月からの開設から2年目を迎え、当初7名の登録生産者も現在は136名を数えるまでになりました。「観光情報の提供」と生産者の顔が見える地域産品の掘り起こし」に一定の成果が現れてきたと思われまます。今後は、更なるサービスの向上の一環として、地場産野菜の講習会や現地指導を強化しながら品質・生産量の安定化を目指し、この生産活動の活性化を図ります。

林業振興

循環型林業の形態を目指し、その一環としてチップ工場から排出されるパークの有効利用を図り、農家への安定した堆肥の提供を目指します。

松喰い虫被害については村内をはじめ南部大島全域で蔓延しているということ、県においては防除事業を終了しましたが、枯損木対策事業や樹種転換事業・樹幹注入事業は継続して今後も進めてまいります。

県営事業につきましては、湯湾赤土線の舗装が平成24年度事業の繰越事業で進められ完成します。佐念線が、平成24年度から33年度まで計画されて、今年度から工事に入ります。村営事業では、阿室線の舗装が平成24年度から26年度までの計画で実施します。

水産振興

焼内湾においては、マグロ・クルマエビ・真珠養殖等が盛んに行われており、特に、マグロ養殖は海洋資源の影響から市場でも今後ますます消費需要が高まると思います。本村の経済に及ぼす影響は多大であるので、企業との信頼関係を構築しながら、生産力の向上に努めてまいります。

観光・商工業

観光の開発について本年度は、田検四級地区を再整備します。一方、うけん市場や「開運の郷」を利用し、焼酎工場や黒糖工場の見学・野球場周辺に整備したグラウンドゴルフ場の使用など、観光客の増加を図ります。商工業対策につきましては、村内商工業の活性化の

保健福祉

ために実施している「やけうちどんと券」も好評であります。利用形態等内容を住民の意見も取り入れて一部見直して実施したいと思えます。

「やけうちどんと祭り」は今回、35回記念イベントでございましてので商工会、連合青年団、各種団体で構成する実行委員会とも連携をとりながら、記念大会にふさわしいイベントにしたいと考えています。

消防・防災

村民が安全で安心して暮らせる環境づくりは、行政の最も基本とするものです。昨年の台風被害や集中豪雨の教訓を生かし、複雑多様化する災害時の対応に消防団の組織力を最大限に生かし、防火・防災及び救急活動の迅速な展開に向けた施策に取り組んでまいります。

教育行政

保健・福祉・医療の充実と生きがい対策等の施策を重点に、第5次宇検村長期振興計画にあります「健やかでぬくもりのある支えあいの村づくり」を目標として、厳しい財政状況下ではありますが、創意工夫・努力を行いながら、職員一丸となって取り組んで参りたいと思えます。

教育行政

子どもから大人まで日々の生活の場である本村の自然や文化、歴史、伝統などを十分に教育施策の中に取り込んでいくことは、ふるさとへの思いや誇り、そして自立や豊かさの基盤になつていくものと考えます。

学校教育面においては、「ふるさとを愛し、生きる力

を備えた元気な宇検の子どもの育成」を目標とし、個々の児童生徒に密着した道徳教育や生徒指導、人権教育、読書活動等を推進するとともに、村教育相談員の活用や豊かな体験活動を取り入れた教育活動の推進に努めてまいります。

また、確かな学力の定着と個性の伸長を図る教育を推進するため、今後とも個に応じた指導や複式・少数指導、小中連携など指導方法の改善充実に努めてまいります。

次に、社会教育面においては、「ふるさとを愛し、結いの心で生き生きと学ぶ活力ある宇検村民の育成」を目標とし、2年ごとに開催している生涯学習大会を実施するとともに、公民館講座や自主事業の展開など生涯学習機会の拡充や生涯学習センターなどの各種施設の活用促進を図ります。



わきやしま しゅん わだい 宇検村の旬な話題

*このコーナーでは、宇検村内の旬な出来事をご紹介します。みなさんの周りにあるめずらしいことなど、情報をお待ちしています。

宇検村役場 総務企画課 広報係 ☎0997-67-2211



講師の八幡さんにそばの茹で方を
習う参加者（3月25日）

初めてのソバ打ち体験

3月25日に村活性化センター「結の館」で、農業委員会及び生活改善研究グループの方々が集まり、初めてのソバ打ち体験が行われました。

本村では耕作放棄地の有効利用などを目的に、2年前からソバ栽培を始めており、今回は昨年12月に村内で収穫し、保存していたソバ粉を使用して実施しました。

霧島市より招かれた八幡 洋一さんを講師に、「失敗をしにくいソバ作り」として、基本をしっかりと押さえれば、誰でも美味しいソバを作ることが出来るという技術を丁寧に指導して頂きました。

参加者全員がソバ打ちは初めての体験で、ソバ粉を混ぜたり練ったりする作業から、ソバを茹でる作業まで真剣に取り組んでいました。本村では今後も研究を重ね、地場産の食材を活用したソバ食品の開発を目指します。



指導を受けながら自転車の運転をする児童

久志小中学校で交通安全教室

～ 自転車の安全な乗り方を学ぶ ～

4月22日、久志小中学校で全児童生徒が参加して、交通安全教室が開催されました。

当日は、瀬戸内警察署宇検駐在所の大野部長と本多部長が、自転車の安全な乗り方について講話を行ったほか、大野 ゆかりさん（湯湾）の操る腹話術人形の“ぜんちゃん”が、子供たちと一緒に「シートベルトをしっかりとる。」「道路では遊ばない。」「道路へ飛び出さない。」などの交通ルールについて、勉強する様子が見られました。実際に自転車の運転も行い、危険箇所でのブレーキの仕方や落ちていて運転する方法を、シミュレーションを通して学んでいました。

児童生徒を代表して市川 藤乃さん（久志中3年）は「この教室で教えて頂いていることは、自分自身を守るためにも大切だと感じています。日常生活で活かして行きたいです。」とお礼の言葉を述べました。



腹話術人形ぜんちゃんと
交通ルールを学ぶ児童生徒



中村シゲさん100歳を祝う

～ 感謝状と記念品を贈呈 ～

特別養護老人ホーム虹の園に入所する中村シゲさん（田検出身）が、4月26日に100歳の誕生日を迎えられ、松井 富彦 副村長より感謝状と記念品が贈呈されました。

お祝いに駆けつけてくれた家族と一緒に記念撮影
孫、ひ孫、やしゃ孫まで総勢14名のご家族が集まり、シゲさんの長寿を祝福しました。

松井副村長が感謝状と記念品を手渡すと、シゲさんは目に涙を浮かべながら両手を合わせ、何度もお礼を言う姿を見せてくれました。

お二人の息子さんは、「とても厳しい母でしたが、唄や踊りが大好きで、ユーモアのある人でした。皆さんのおかげで100歳を迎えることが出来ました。」と話してくれました。チヂン太鼓に合わせて自慢の唄声まで披露してくれたシゲさん。いつまでもお元気で、長生きされて下さい。

当日は、長男と次男の息子さんご夫婦のほか、



みんなの祝福に両手を上げて喜ぶ中村シゲさん



保枝 久信 行政相談委員

このように行政相談委員としての積極的な活動の功績が認められ、今回の受賞となったものです。

保枝氏は平成七年一月に本村の行政相談委員へ委嘱されて以来、約十八年にわたり、村民の良き相談相手となって、広く行政に対する意見・要望をお聞きし、村民の福祉の向上と行政運営の改善に努めて来られました。

このほど、阿室集落在住の保枝久信氏が、公益社団法人全国行政相談委員連合協議会長から表彰を受けられました。

行政相談功勞を受賞 保枝久信氏（阿室）



多くの村民が訪れ体育館の運用再開を祝った

総合体育館の改築竣工記念行事

～ 音楽とスポーツのイベントで完成を祝う ～

昨年の8月に発生した台風15号の影響により、屋根が大きく剥がれるなどの被害を受けた宇検村総合体育館の大規模な改築工事が完了し、6月2日に改築竣工の記念行事が行われました。

同体育館の改築総工費は2億2,800万円で、屋根は以前の風速46mから風速65mまで耐えられる設計となりました。また、全ての照明にLEDライトを使用し、壁の色も薄茶色へ変更したため、以前に比べて屋内が明るくなりました。

記念行事は、午前に行行政及び工事施工関係者が出席して安全祈願祭が行われたほか、石原 久子さんと前山 真吾さんによる島唄や開運太鼓による演奏などがあり、午後からはソフトバレーボール大会が開催され、参加した約200名の村民は10ヶ月ぶりに訪れた体育館でイベントを楽しみました。



ソフトバレーに汗を流す参加者

宮城県七ヶ宿町との交流が始まる

宇検村と同規模の自治体、七ヶ宿町。将来へ向けて互いに知恵を出し合いながら交流を深め、両町村の活性化につなげる！

七ヶ宿の道の駅で奄美大島の特産品と観光をPR

七ヶ宿町各課長と意見交換会 奄美の特産品の試飲試食会

▶2月に宇検村を訪れた七ヶ宿町の梅津町長。役場職員を前に両町村の活性化へ向けた協力体制の大切さを話してくれました。



うめつてるお
梅津 輝雄 町長



◀七ヶ宿町の生ゆるキャラ「ゆり太郎」。3名が登録しており、旅姿で観光ガイドを行う。



七ヶ宿町と東北福祉大の関係者を囲み記念撮影(2月21日)



今後の交流について七ヶ宿町各課長との意見交換会(4月19日)



特設ブースで奄美の特産品を味わう来場者(4月20日)



貯水量が東京ドーム約90杯分にもなる七ヶ宿ダム

七ヶ宿町役場の全景

宮城県・七ヶ宿町とは

七ヶ宿町は宮城県の最南西部に位置し、福島と山形の両県に接しており、奥羽山脈の東南斜面の一体を占め、自然環境に恵まれた町です。人口は約1,600人(平成25年5月末現在)。

東北福祉大学とは平成24年11月に連携協定を結んでおり、地域資源を活用した人材育成などに取り組んでいます。



宮城県刈田郡
七ヶ宿町
人口 1,656 人
(2013.5.30 現在)

陸上部とハンドボール部が毎年合宿を行うなど、本村と深いつながりのある東北福祉大学との縁がきっかけで、宮城県刈田郡七ヶ宿町との交流が今年に入り本格的に始まりました。

今年2月に七ヶ宿町の梅津輝雄町長や東北福祉大学の関係者が本村を訪れ、それぞれの町村が抱える課題や今後の取り組みなどについて意見交換を行いました。また、4月には役場から

松井富彦副村長と4名の職員が七ヶ宿町を視察。町職員との交流を深めたほか、道の駅に特設ブースを設置して、宇検村の自然と動植物の写真を展示すると共に、奄美から持ち込んだ「タンカンジュース」の試飲や「黒糖かりんとう」などの試食、小瓶に入れられた黒糖焼酎「れんと」を来場された町民へ配布し、奄美の魅力を伝えるPRキャンペーンを行いました。

今後小中学生の訪問交流や奄美と七ヶ宿町の特産品を販売し合う物的交流、共通の課題である少子高齢化などの問題についてもお互いに知恵を出し合いながら取り組む考えで、具体的な交流事業に向けた情報交換を行っていくことになりました。

田検小中卒の昭和16年生 巳年全国同窓会

情報提供者 昭利 昭和16年巳年全国同窓生一同

「巳年の今年」を記念し、去る5月14、15の両日に田検小中学校を卒業した昭和16年巳年全国同窓会を私達の故郷の島で6年ぶりに行いました。

振り返ってみますと、なんと今回で6回目を数える同窓会でした。若かった頃は、37、8名の参加者がいましたが、年とともに参加者も減って、今回は21名でした。

今後は、身体に気をつけて健康で長生きし、再会出来ることを願います。

そして、自分のことは自分で出来る完熟したニセー(青年)、メーラベ(乙女)でいたいのです。最後に万歳三唱で楽しい同窓会は、幕を閉じました。

みんなの広場



巳年を記念して故郷で6年ぶりに集まった昭和16年生の全国同窓会。(平成25年5月14日/たつみ荘にて)



新しい宇検村観光ガイドブック “^{アイラブ}I ♥ 宇検村” を作成



元田村長(前列中央)と記念撮影をする観光ガイドブックの制作に関わったメンバー(5月2日)



宇検村役場の若手職員と民間のデザイナー団体「Shall We Design (SWD)」が共同で制作した観光ガイドブック「I ♥ 宇検村」が5月2日に完成し、6年ぶりに本村の観光パンフレットがリニューアルされました。

昨年10月ごろから制作の計画が始まり、今年2月からはメンバー全員で村内の各集落を回り、取材と撮影を実施しました。取材のほかにワークショップも4回開き、話し合いを重ねて完成させました。村では今後、自然史、文化などのガイドブックの制作も予定しています。ガイドブックは、村内のうけん市場や奄美空港、奄美市の観光案内所など村内外の施設へ配布されています。



← やけうち短歌会発足への
思いを詠んだ大島先生の一首



私たち やけうち短歌会

短歌、 五・七・五・七・七に 想いを込めて。

短歌を詠むために
日常のあらゆる風景を
静かにじっと見つめる。
自分の心にゆとりが生まれ
清らかになっていくのを
感じられる短歌って素晴らしい。



平成24年度大島地区文化協会「広域文化功労賞」の授賞を記念して撮影した集合写真。
休目にも大島先生宅を訪れ作品を見てもらうなど熱心な会員の方が多くいます。

発足してわずか5年で 奄美最大の短歌会へ成長

平成19年7月に宇検村公民館
講座の短歌教室として発足した
「やけうち短歌会」が今年で6
周年を迎えました。

発足当時は、講師の大島安徳
先生（宇検）を含め14名で活動
を始めましたが、現在では小中
学生の部85名を合わせて総勢
151名となり、奄美で最大
の短歌会へと成長しています。

昨年12月には、地域文化の振
興に大きく貢献したとして、大
島地区文化協会より短歌会とし



ては初めて
「広域文化功
労賞」が授与
され、発足し
てわずか5年
での受賞とい

う快挙を達成しました。

5年の短い期間で大きな発展
をみせた「やけうち短歌会」。
これまでの短歌会の歩みと、そ
の魅力をご紹介します。

歌集の発行や展示会まで 短歌を通じた幅広い活動

短歌会の発足4ヶ月後には、奄美の地元新聞2社へ作品の投稿を始め、現在も小中学生と一般会員の作品が毎月掲載されており、保護者や村内外の多くの島人を楽しませています。

4年前の平成21年3月には、奄美パークの田中一村記念美術館において「宇検やけうちむら暮らしの意匠展」と銘打って、約300首の短歌展を開催。



わずか18日間の展示期間中にも関わらず2256人も来場を記録しました。

平成22年11

月には3周年を記念して合同歌集「やけうち」を発刊。さらに、今年2月には奄美パークで2回目となる短歌展「はらからの愛と絆」を龍郷町の龍郷短歌会と合同で開催しました。

平成19年7月	公民館講座・短歌教室発会「やけうち短歌会」と命名
平成19年11月	地元新聞2社へ投稿を始める
平成19年12月	久志中学生5名が入会
平成20年5月	久志小学生18名が入会
平成21年3月	奄美パーク田中一村記念美術館にて短歌展「宇検やけうちむら暮らしの意匠展」を開催 3/15～4/5
平成22年11月	3周年記念 合同歌集「やけうち」発刊
平成23年2月	田検小学生67名が入会
平成24年5月	久志小中10名、田検小75名
平成24年12月	平成24年度大島地区文化協会「広域文化功労賞」授賞
平成25年2月	奄美パーク田中一村記念美術館にて短歌展「はらからの愛と絆」を龍郷短歌会と合同で開催 2/3～2/17



今年2月の奄美パーク展示会で宮崎緑館長と記念撮影をする大島安徳先生(中央)と佐々木一宇事務局長



毎月2回実施している歌詠み会の様子

他にも、依頼のあった小中学校での出前講座や「エフエムうけん」で会員の作品を紹介する番組を毎月放送するなど、積極的な活動を行っています。

奥深い短歌と楽しい仲間

「やけうち短歌会」には全国的にも珍しい短歌会の唄があり、毎月2回開いている歌詠みの会では参加者全員で合唱するそうです。会員の絆は強く、定期的に行うレクレーションでは食事をしながらカラオケや余興を楽しんでいるのだとか。

講師の大島先生は「短歌には心(精神)を清らかにする奥深い力があります。その奥深さを会員の方と楽しみながら味わえるのは、この上ない喜びです。宇検村や村教育委員会、学校など多くの方々の温かいご後援のおかげです。」と5年間を振り返り話してくれました。

今年の11月には6周年記念の合同歌集を発刊予定。同短歌会のさらなる活躍が楽しみです。